

## 令和2年度 病虫害発生予察情報(美濃地域) 6月予報

### 【 果樹 】

#### 果樹カメムシ類 \* 病虫害発生予察注意報第1号 (R2.5.27付) 発表

岐阜・西濃、中濃及び東濃地域に設置した予察灯、フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数が、5月上旬以降、平年より多く推移しています。特に、温度及び湿度が高く、風のない夜は、活発に活動する傾向があります。今後の気象情報には十分注意し、飛来が認められる場合は直ちに防除を実施してください。

### 【 かき 】

#### カキノヘタムシガ (カキミガ)

成虫の見取り調査では、本年の発蛾最盛期は5月23日頃(平年5月22日)と平年並、発生量は樹あたり1.8頭(平年2.2頭)と平年並でした。防除適期は発蛾最盛期から7~14日後の6月上旬と予測されます。近年発生が長期化していることから、被害が多いほ場ではさらに7~10日後に追加防除を実施してください。

### ○主な病虫害の発生時期及び防除時期 (6月)

	病虫害名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項	
			1旬	2旬	3旬	4旬	5旬	6旬		
水 稲	生育(コシヒカリ)								・田植え 5/11(農業技術センター)	
	生育(ハツシモ)			< 田 植 え >					・田植え 6/10予定(農業技術センター)	
	葉 い も ち	並				< 初 発 生 >			・箱施薬を実施する。	
	縞 葉 枯 病	少			< 初 発 生 >				・ <b>縞葉枯病</b> 感受性品種では、縞葉枯ウイルスを媒介するヒメトビウンカの防除を徹底する。	
	ヒメトビウンカ	少		< 第1世代成虫 >						
	ニカメイガ	やや少			< 越冬世代成虫 >					
	防 除 適 期		~ ■ 葉いもち・ヒメトビ・ニカメイガ ▲ 葉いもち・ヒメトビ						・ <b>ヒメトビウンカ</b> 箱施薬を行わなかったほ場では第1世代成虫最盛期に本田防除を行う。	
か き	生育(富有)	並							・開花最盛期 5/21 (平年 5/20 : 農業技術センター)	
	ハマキムシ類	多						(第2世代成虫)	・ <b>ハマキムシ類</b> 幼虫発生初期の防除を徹底する。	
	カキノヘタムシガ	並	< 第1世代幼虫 >							
	フジコナカイガラムシ	並				< 第1世代1齢幼虫 >			・ <b>フジコナカイガラムシ</b> 虫体に薬液が到達するように丁寧に散布を行う。	
	防 除 適 期		▲ <b>カキノヘタムシガ</b> ▲ <b>フジコナカイガラムシ</b>							
な し	黒 星 病	やや多					< 果実発病最盛期 >		・ <b>黒星病</b> 発病が散見されるほ場では確実に防除を実施する。	
	防 除 適 期		黒 星 病 ▲ ~							
も も	せん孔細菌病	多					< 発病拡大期 >		・ <b>せん孔細菌病</b> 春型枝病斑が確認される場合は摘果時までに取り除く。	
	ナシヒメシンクイ	やや多		< 第1世代成虫 >					・ <b>ナシヒメシンクイ</b> 新梢伸長期(4月下旬~6月下旬)の防除に重点をおく(早生)。	
	防 除 適 期		▲ <b>せん孔細菌病</b> ▲ <b>ナシヒメシンクイ</b>							
果 樹	カメムシ類	多	< 越 冬 世 代 成 虫 >						・夜温が高い場合、突発的にはほ場へ飛来する恐れがあるので、注意する。	
	防 除 適 期									
茶	生育(やぶきた:池田)	並						< 二番摘採期 >		
	生育(やぶきた:白川)	並						< 二番摘採期 >		
	岐阜 西濃	ハマキムシ類	多					< 第1世代成虫 >	・幼虫発生初期の防除を徹底する。	
		チャノホソガ	少		< 第1世代成虫 >				・ <b>チャノホソガ</b> 発蛾最盛期と萌芽~開葉期が合致すると被害がでるため、1~2葉期に防除を実施する。	
		防 除 適 期		▲ <b>チャノホソガ</b> ▲ <b>ハマキムシ類</b>						
	中 濃	ハマキムシ類	多			< 第1世代幼虫 >				
	チャノホソガ	少					< 第1世代成虫 >			
	防 除 適 期									
野 菜	コ ナ ガ	やや少							・同一系統薬剤の連用は避ける(薬剤抵抗性の発達)。	
	アブラムシ類	並							・ <b>アブラムシ類</b> 定植時に粒剤を施用する。	
	防 除 適 期									

		病害虫名	発生量	発生時期及び防除適期	防除上の注意事項
施設	トマト	灰色かび病	少	調査ほ場では発病が認められない。曇天が続く場合は発生すると予測される。(発病果率 0.0%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生初期の防除を徹底する。</li> <li>施設内が多湿とならないよう、湿度管理に注意する。特に夜間は多湿となりやすいため注意する。</li> <li><b>葉かび病</b> 薬剤が確実に葉裏にかかるよう丁寧に散布する。</li> <li><b>うどんこ病</b> 過度の乾燥は発生を助長するため、注意する。</li> </ul>
		葉かび病	少	調査ほ場では発病は認められない。曇天が続く場合は発生すると予測される。(発病小葉率 0.0%)	
野菜	キュウリ	べと病	少	調査ほ場では発病が認められない。梅雨時期となるため、今後の発生に注意する。(発病葉率 0.0%)	
		褐斑病	少	調査ほ場では発病は認められない。罹病品種では今後の発生に注意する。(発病葉率 0.0%)	
		うどんこ病	少	調査ほ場では発病は認められる。引き続き発生に注意する。(発病葉率 1.8%)	

注1) ▲、▲～▲：防除適期 ■：箱施薬

注2) 美濃地域は岐阜、西濃、中濃および東濃地域

注3) 用語の定義及び基準については「発生予察事業の調査実施基準」に準ずる

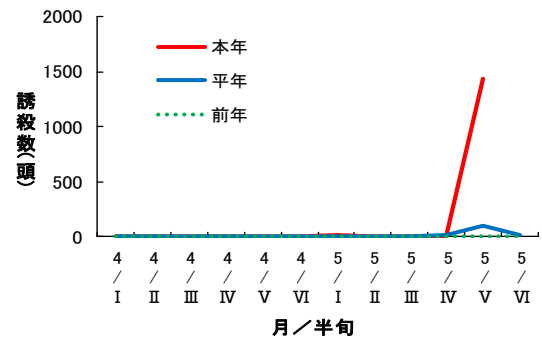
### 果樹カメムシ類（主にチャバネアオカメムシ） \* 病害虫発生予察注意報第1号（R2.5.27付）発表

岐阜市及び美濃加茂市の予察灯によるチャバネアオカメムシの誘殺数は、それぞれ5月第5半旬、5月第4半旬に急増しました（右図）。

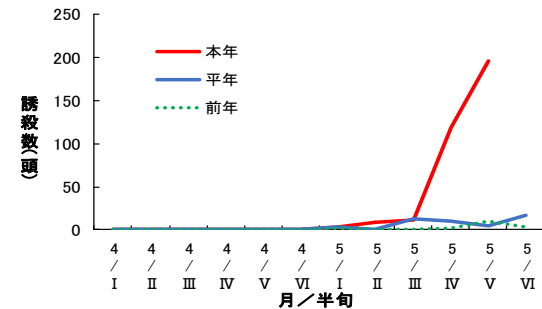
本年の5月中旬におけるサクラ果実の吸汁調査では、池田町で吸汁果率73.3%と果樹園への飛来の目安となる75%に近づき、中濃地区（美濃加茂市、美濃市）では成熟落果しており、サクラ果実が餌として適さなくなっています。

一部の果樹園では、すでに飛来が確認されており、気温の上昇とともに断続的に発生が見られ、更に多くなる可能性があります。

現在発生している越冬世代成虫は7月下旬頃まで発生が続くと予想されるため、薬剤による防除はナシ、モモ等では袋かけ前、カキでは幼果期の時期が目安となります。特に、風が弱く、夜温が高い薄暮時（日没後2時間位）に活動が活発となるため、園内をよく観察し、飛来が認められたら直ちに防除を実施し、被害の軽減に努めてください。



予察灯によるチャバネアオカメムシの推移（岐阜市則松）



予察灯によるチャバネアオカメムシの推移（美濃加茂市山之上町）

### モモせん孔細菌病

本病は病原細菌により、枝、葉および果実に発病します。枝での発病は、春型と夏型の病斑があり、春型は開花期から落花期にかけて結果枝の表面に発生します。結果枝にある病斑から5月から6月にかけて、病原細菌が風雨により葉や果実に拡散します。葉では、最初、カスリ状に白っぽくなり、のちに褐変し、穴があきます。果実では初め褐色の小斑点が生じ、果実の肥大にともない大きな病斑となります。本病によって、果実が腐敗することはありませんが、見た目が悪く、品質は大きく低下します。

ほ場内をよく観察し、本病の発生に注意してください。また、以下の対策により本病の防除を徹底してください。

- ①発病枝（春型枝病斑）や新梢葉の発病部は、見つけ次第除去する。
- ②幼果は本病に感染しやすく、落果の原因になるため、早めに袋かけを行う。
- ③防風ネット等による防風対策を行う。
- ④薬剤防除を行う場合、散布ムラのないよう丁寧に行う。



**6月～8月は「農薬危害防止期間」です。**

農薬の適正な使用、保管管理に努め、農薬を散布する場合は、周辺に栽培されている作物のみでなく、住宅地等を含めて飛散がないよう、十分に配慮してください。

### 東海地方1カ月予報（名古屋地方气象台 5月21日発表）

向こう1カ月の気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並～少ない見込みです。期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。

[http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo/nogyo/gifu-clean/24321/index\\_12132.html](http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo/nogyo/gifu-clean/24321/index_12132.html)

〒501-1152 岐阜市又丸729-1 TEL (058) 239-3161 FAX (058) 234-0767